



業務に打ち込むミャンマー拠点のスタッフ＝ヤンゴン（ウイング提供）

ミャンマーに拠点 業務委託

ウイングは、官公庁や県内製造業など幅広く業務システム開発を手がける。自動生成ソフトにより開発期間を短縮できる「ローコード開発」を得意とするが、システム稼働後の保守作業などにも労力がかかることから、新規需要の開拓に十分な人手を割けない課題があった。業務の一部を海外に委託する「オフショア開発」で負担を緩和し、顧客との対話を増やしながら、デジタルトランスフォーメーション（DX）支援に注力する狙いだ。

今回ウイングが契約したグローバルインベーション・コンサルティング（GIC、東京）は、ミャンマーに技術者を抱え、人材サービスを提供している。ウイングはベトナムにも拠点を持つが、人件費の上昇や一定のスキルに達すると転職する

DX支援に注力 新規需要開拓へ

傾向があることから、縁のあったGICに依頼し、ミャンマーの最大都市ヤンゴンと第2の都市マンダレーに開設した。

今年4月から、現地の大卒者10人が実務に当たっている。2人のグループリーダーを介して日本語でやりとりする。システムのテストなどをこなし、今後保守作業を担っていく。

給与はスキルに応じて上昇する仕組みで、GICに日本円で支払う。諸手当や社会保険料などを含めて1人当たり月18万〜35万円、日本国内の半分ほどの水準だという。電力やインターネット環境も現状不具合は起こっていない。

一方、不測の事態への備えは検討課題となっており、ミャンマーでは21年に国軍がクーデターで全権を握った。民主派との武力衝突が続き市民弾圧が拡大するなど、情勢が混乱している。ウイングには「都心の状況は地方に比べて安定している」との情報が入っているという。

ミャンマー拠点は、24年4月に50人体制を目指す。状況を見極めながら現地法人を立ち上げる考えもある。ウイングの樋山泰三社長は「事業規模の拡大には、顧客へのコンサルティングといった対応力が必要になる。現地に作業を割り振ることで、新規開拓に集中したい」と話した。

ソフトウェア開発 ウイング（新潟中央区）

ソフトウェア開発のウイング（新潟中央区）は、ミャンマーを拠点とする開発体制を整えた。ミャンマーでの人材サービスを運営する都内の企業と契約し、開発業務の一部を委託。人件費の安い現地拠点に作業を分担する。2021年のクーデター後、軍事政権下で揺れる現地の政治情勢を注視しつつ、日本国内ではデジタル化に伴い多様化する顧客ニーズの把握、対応に集中する。